



# 補習校だより

平成26年度 第30号

平成26年12月6日発行

マイアミ補習校

校長 永井 晋

事務所 305-406-0050

土曜日 917-521-5768

ホームページ [miamihoshuko.org](http://miamihoshuko.org)

E-mail [hoshuko@bellsouth.net](mailto:hoshuko@bellsouth.net)

## 師走

校長 永井 晋

早いもので今年ももう12月になってしまいました。12月のことを師走と言いますが、ここでいう「師」とはどうやら「先生」のことではなさそうです。今でもはっきりとはしていないようですが、「師」すなわち「僧侶」は「馳せる」ほど忙しいという説が有力だそうです。しかし、実際に日本では先生も非常に忙しい時期であることは間違いありません。アメリカでは12月といえばやはりクリスマスを中心としたホリデイという感じがします。様々な宗教がありますのでクリスマスを祝うかどうかは別にしてもやはりこの時期は学校も会社も休みになることが多いのです。そして年明けは1月2日から働く人も少なくありません。一方日本では1年が無事に終わり、新しい年を迎えるにあたり正月を特に元日を祝う風習がありますので、正月3が日をお休みにしている会社が多いのです。もちろんクリスマスはお休みではありません。ところで正月というのはいつのことだと思いませんか。実は1月1日から31日までが正月なのだそうです。最近では地方によって3が日を正月と呼んだり、松の内の15日までを正月と呼んだりしますが、由来は1月すべて正月だそうです。では、元日と元旦はどう違うのでしょうか。元日とはまさに1月1日のことで、元旦は1月1日の朝を表します。同じような使われ方をされていますが実際には意味が異なるのです。初日の出を拝み祝う習慣がありますがなぜでしょう。これは1年の初めの日の出とともに年神様が現れると信じられていたことに由来します。年神様は新しい年の特に穀物の豊穰を司る神といわれ、もともと農耕民族だった日本人は穀物神に対する感謝と祈りが根底にあります。元来門松や注連縄（しめなわ）は年神様を迎えるための物ですし、鏡餅は年神様のお供えでした。このように毎年迎えている正月には古来からの意味が存在します。アメリカに住んでいる私達ですからこそこの意味をかみしめて正月を迎えてみてはいかがでしょうか。

